

「公立があると
私立に行かないか?」

市は、「公立を増やすと私立にこどもが通わなくなる」「保育所は市内どこからでも通える」と私立幼稚園の経営をおもんぱかった答弁を繰り返しています。

いったい、だれのための保育・教育施設なのか。子どもの健全な成長を正面に据えた発言とは言えず、保護者の負担も増えること。市の役割をどう考えているのかと追求しました。

多い潜在的待機児童

今年4月、保育所待機児童がはじめてゼロ(国基準)になりましたが、国基準に該当しない入園所保留者数は60人にのぼっていました。

国基準では、「特定の保育施設を希望」する人や「育児休業中」といった人は待機児童数から外されますが、預けたいが預けられない「潜在的待機児童数」がはるかに多いのです。

市が施設を減らせば、預ける条件が狭まり潜在的待機児童が増えるのは当然です。

また、239人も施設定員超過でスタートしている実態、年度内待機児童は毎年3桁になっているのですから、施設数・定員数も足りない実態が明らかです。(2022年3月時点121人・待機児童数)

市民負担がどんどん増え、あれいい」という特別支援

市有地の無償・有償貸与

市内の私立園における必要な費用は(表①)通りですし、現在電車やバスで小・中学校に通つている児童・生徒400人の交通費負担は年間約2340万円、1人平均約5万円にもなっています(表②)。

千円にもなっています(表②)。

市内の私立園における必要な費用は(表①)通りですし、現在電車やバスで小・中学校に通つていても、こどもが健やかに育つ保育・教育環境を整えることは自治体の責務。ですからお隣の猪名川町では、幼稚園廃園や学校統廃合時には通園・通学バスを運行されているのです。

表① 私立園諸費、2022年2月ホームページより抜粋

| | |
|-------------|--------------|
| 願書、検定手数料 | 1000~20000円 |
| 給食費 | 2300~8200円 |
| 保護者会、父母会 会費 | 300~800円 |
| 同窓会、後援会 費用 | 200~700円 |
| 入園金 | 30000~60000円 |
| 施設費 | 20000~40000円 |
| 教材、教育費 | 2000~30000円 |

教育の無償化は基本保育料なので、園所によって、上記の他に、制服・カバン・体操服代、冷暖房費、絵本代、特定保育料、預かり保育料、バス代など必要に応じて、徴収されます。

表② 通学に電車・バスを利用する児童・生徒
(2021・R3年9月1日時点)

| 定期代(円) | | 1か月 | 3か月 | 6か月 | | |
|--------|-----------|--|-------|-------|-------------------|------|
| 電車 | 日生中央—山下 | 4630 | 13200 | 25010 | ☺ 東谷小(一の鳥居~山下) | 8人 |
| | 一の鳥居—山下 | 3850 | 10980 | 20790 | ☺ 東谷中(日生中央~山下) | 245人 |
| | 上同(保護者) | 5960 | 16990 | 32190 | (阪急バス利用) | 62人 |
| バス | 160円区間 | 5950 | 16960 | 32130 | ☺ 清和台中(阪急バス利用) | 85人 |
| | 上同スクールバス | 1学期20230、2学期21720、2学期+24100、3学期15470、年間59500 | | | | |
| | 170円区間 | 6320 | 18010 | 34130 | ※2学期+~夏休みも利用できるバス | |
| | 上同スクールバス | 1学期21490、2学期23070、2学期+25600、3学期16440、年間63200 | | | | |
| | 220円区間 | 8180 | 23310 | 44170 | | |
| | 310スクールバス | 1学期27140、2学期29350、2学期+32470、3学期20590、年間81100 | | | | |

*山手~20790円(電車半年定期)×2=41580円

8人分 332640円

*日生~63200円(バス年間バス)

62人分 3918400円

25010円(電車半年定期)×2=50020円

245人分 12254900円

*けやき坂~81100円(バス年間バス)

85人分 6893500円

合計 2339万9440円

注;家計には無理がありますが、一番安い定期料金で算出しています。

表③ 無償貸与中の市有地賃借料試算

(路線価や係数など市の算定根拠に準じて計算)

* T保育所敷地 約120万円

(福祉・教育施設 1000分の20)

* T学校敷地 約1316万2000円

*川西病院(医師住宅・看護師宿舎・駐車場)敷地 約1100万円(基準通り1000分の40)

※一方で、年間賃借料300万円余の有償の園もあります

3月議会に提出され継続審査となつた「川西市公共交通基本計画等に関する請願書」は、請願者(大和交通検討委員会)が請願を取り下げられました。

私たち議員団は請願の紹介議員になり、市全体の地域公共交通の計画が確定するまでの2年間は、大和循環(東谷・平野駅のバス便は、現行の便数、料金を維持し、市が財政支援するべきだと請願採択に奮闘しました)。

10月から市が提案した計画通り(たんぽぽだより234号掲載)減便、運賃は160円が220円に値上げされます。

大和地域の平日は38便が守られますが、土日祝は21便が12便に、山下平野間は平日32便が6便に、土日祝は16便が4便に激減します。便数の激減や料金値上げに伴う乗車控え・乗降客の減少が懸念されます。

交通事業者や市民への負担は限界です。「公共交通」を堅持していくため、国や自治体の財政支援は必須です。(市の補助限度額・2120万4000円)住み続けることができる地域公共交通策定にむけてがんばります。

「公共交通」請願取り下げ

バス、10月から値上げ・減便

